Fate/stay nightでアサシン無双があってもいいじゃない

葛根

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔでアサシン無双があってもいいじゃない

【Ｎコード】
Ｎ２６１３ＢＡ

【作者名】
葛根

【あらすじ】
ｆａｔｅ／ｚｅｒｏ、ｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔで不憫なサーヴァントであるアサシンが大活躍するお話。
奇策、謀略、計略、策謀なんでも有りの外道マスターと相性抜群のアサシンが大活躍。

プロローグ（前書き）

この小説はｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔの二次創作です。
原作とは異なる設定、独自解釈、キャラクターの著しい崩壊などが含まれております。
原作の雰囲気を重視される方はご注意ください。

プロローグ

●

――10年前――

始まりに至る物語の終焉。
ある男の命令により、聖杯は使われないまま破壊された。

衛宮切嗣。かつて「魔術師殺し」と徒名された殺し屋だった。
そのスタイルは魔術を目的遂行の為の手段として、本来魔術師に忌避される近代兵器を躊躇無く使用する魔術師であった。
その魔術師が何を望み聖杯戦争に参加したのか。
故人である人物に問うても解答を得ることなどできないのだ。

●

誰よりも仕事が好きで、誰にでも恐れられている男の話をしよう。
その男は魔術師であった。類稀な才能を持ち、かつて「魔術師殺し」と悪名高い衛宮切嗣の徒名を次ぐ人物である。
男は客観的な己の評価を下卑た。自己評価は身体強化系に特化しただけの欠落魔術師。
故に、使える道具は使う。だからこそ、衛宮切嗣の名が付き纏っていた。

「魔術師だって近代兵器くらい使う。近代機器だって使う。パソコンに携帯電話。拳銃に、機関銃。便利なものなのにな……」

魔術師として欠落している為か、それを補うように時代にあった

道具を使い切る事に何の抵抗もなかった。だからこそ、かつての外道魔術師を知る者達からは、「魔術師殺し二世」と語られていた。

皮肉だ。その男が「魔術師殺し二世」と衛宮切嗣を背景に語られ始めた頃に、衛宮切嗣の遺体から魔術刻印を盗み取り移植したのだ。

これが皮肉以外になんと言うのか。

元々、衛宮家の魔術である「時間操作」に興味があった。身体に馴染むまで時間は掛かるだろう。しかし、その男の身体はまだ幼さの残る身体であった。

●

武部武（たけべたける）。極東の地。聖杯戦争が行われる冬木市に入る前に必要な名前だ。

戸籍を買い取ったのだが、なかなかどうして響きの良い名だ。

身体強化系に特化している魔術師の自分に取って武は人生の大半を伴侶として共に生きてきた、言わば戦友なのだ。

「さて、初日本だ。まずは――」

右手に刻まれている令呪を見る。半年前に刻まれた令呪。早期からアドバンテージを握るためには情報戦に勝利しなければならない。だからこそ、アサシンの英霊を呼び出した僕は優勢だ。

アサシン。

真名はハサン・サッバーハ。

百の貌の１９代目のハサンであり、その宝具は多重人格からなる分裂。

つまりは、アサシン１人が最大８０人まで分裂して増える事ができるのだ。

情報収集から、隠密行動、諜報活動に長けるアサシンだから、僕

との相性は良い。

「間桐、遠坂、アインツベルンに赴いて情報を集めろ。後一人、衛宮の家に赴きそこに住んでいる衛宮切嗣の跡継ぎの様子を仔細に観察して僕に報告するんだ」

『了解です。マスター』

――第五次聖杯戦争開始まであと約４ヶ月。

●

武部武という偽名を名乗って早一ヶ月が過ぎようとしていた。貯蓄していた資金の大半を使い込んで購入した兵器、電子機器も揃い後は聖杯戦争の開始を待つだけとなっていた。

「アサシン。どうだ？　精密機械の扱いは慣れたか？」

アサシンの持つ専門スキル専科百般により、科学兵器や、電子機器といった現代の兵器、機械を学習済みであった。

取り分け、肉体的に他のサーヴァントに劣るアサシンだが、相性というものがある。

他のサーヴァントはどうあれ、アサシンの基本戦闘スタイルはマスター襲撃にある。よって、まさかサーヴァントでありながら近代兵器を使用する、その発想自体他の魔術師にも思いつかないであろう。

対マスター戦において絶対のアドバンテージを誇るアサシン陣営に更なる僥倖があった。

それはアサシンが前回の第四次聖杯戦争でもアサシンとして使役されていたということである。それも、その時のマスターは今回の

聖杯戦争の監督者である言峰綺礼だったという。
だからこそ、冬木教会にもアサシンの一人を監視させる目的で早々に配置できたのは僥倖である。何故なら、前回マスターとして生き残った言峰綺礼が今回もマスターに成り得る可能性は高く、その素性や、召喚するであろうサーヴァントを早期に知り得る事ができるからである。
さらに、前回の生き残りだった衛宮切嗣の情報も幾つか手に入ったのだ。
武部武に取って良い印象のない名前ではあったが、その経歴や魔術師殺しとしても考え方は非情に似たり寄ったりであり、「魔術師殺し二世」と揶揄する人物達の的は得ていると感心したほどである。
使い魔を持って、監視するのは魔術師の鉄則である。だが、それを科学の力で行うのは現代の魔術師では武部武以外にはいないであろう。元々、使い魔に監視カメラを埋め込んでいた武部武だったが、その先人である衛宮切嗣も同じような事をしており、ますます、「魔術師殺し二世」が身に染みてきたと自笑してしまうのだ。

「何か可笑しな所でもありましたか？」

男のアサシンの問に武部武は答える。

「いや、聞けば聞くほど衛宮切嗣と僕は似ているな、と思ってな。前回の聖杯戦争で彼がセイバーのクラスのサーヴァントではなくアサシンのクラスのサーヴァントを召喚していたらと思うと……。いや、無駄な思考だな。ともあれ、僕ほど今回の聖杯戦争で優位なマスターはいないだろうね」
「はい。必ずやマスターは聖杯を手に入れるでしょう。そして私共の悲願達成もまた、確実に達成されるでしょう」
嗤う。

今度は自笑ではなく、確信を持って。

●

最弱のサーヴァント。
最強のサーヴァント。
果たして誰が聖杯戦争を生き延びることができるのか。
配点：（始動）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2613ba/

Fate/stay nightでアサシン無双があってもいいじゃない

2012年1月6日18時15分発行